J-29

# わらび劇場を中心としたあきた芸術村の改修案（２）
# あきた芸術村　ブロードウェイ化計画

## Bracken Akita Art Village renovation plan with a focus on theater（2）

Akita art Village Broadway Plan

○黄起範[1]，矢島結菜[1]，重田秀之[2]，佐藤信治[3]
*Rhino Hwang[1], Yuina Yajima[1], Hideyuki Shigeta[2], Shinji Sato[3]

Troupe Warabiza the Takarazuka Revue, which is one of Japan's leading theater group second only to the Shiki Theatre Company. Also bracken theater, home to the theater company Warabiza is located in Akita Prefecture Semboku, is located in the unusual rural as theater company. Currently bracken theater has become one of the autumn artistic village of facilities, aging is in progress has passed more than 40 years from completion. Also by harmful rumors since the Great East Japan Earthquake as a whole bracken theater, has Tonoi is foot traffic, even 5 years after the current from the earthquake, Art Village overall restructuring that autumn also in order to bring back the audience there is a need. So we propose a theater Village by the dotted type small theater with the new bracken theater.

1.　はじめに

劇団わらび座は宝塚歌劇団,劇団四季に次ぐ国内有数の演劇集団である．劇団わらび座の本拠地であるわらび劇場は秋田県仙北市に位置しており,劇団としては珍しく地方に位置している．現在わらび劇場はあきた芸術村の施設の一つとなっているが,竣工から 40 年以上が経過しており老朽化が進行している．またわらび劇場全体としても東日本大震災以降の風評被害により．震災から 5 年経った現在でも客足が遠のいており,お客さんを呼び戻すためにもあきた芸術村全体の再編が必要とされている．そこで私たちは新わらび劇場と点在型小劇場によるシアタービレッジを提案する.

2.　計画背景

対象敷地である秋田県仙北市田沢湖地区は日本で最も深い湖である田沢湖があることが広く知られており,角館地区は武家屋敷を中心とした重要伝統的建造物群保存地区があり、「みちのくの小京都」と呼ばれる歴史の町である.1996 年にたざわこ芸術村の名で誕生したあきた芸術村は劇場・ホテル・温泉・地ビール・伝統工芸・郷土料理を丸ごと満喫できる滞在型アートヴィレッジを展開することで「人と文化の出会いと交流の場」として機能してきた.この劇場を中心に娯楽施設を機能させる経営方針はシェイクスピアの公演を中心に舞台芸術フェスティバルを行うアメリカオレゴン州のアッシュランドがモデルになっている.

現在あきた芸術村には大きく二つの問題点が存在する.一つは芸術村の屋台骨であるわらび劇場の老朽化だ.1974 年に全国 800 万人の市民支援によって建設されたわらび劇場はパブリックシアターで,地元秋田の民謡や民族舞踊を基にした演劇を公演する「地域に根差した劇場」として機能している.しかし一般的に RC 建造物の寿命が 50 年といわれる中,1974 年に建てられて以来築 42 年を迎え、著しい老朽化で建て替えが求められている.もう一つは施設の分散から発生する施設同士のつながりの欠如と利用頻度の格差である．1962 年の民族芸術研究所を皮切りに 74 年にはわらび劇場が誕生した.その後 92 年に娯楽機能を備えた温泉ゆぽぽが生まれ,96 年に森林工芸館,97 年には,田沢湖ビールレストランが立て続けに計画され,その翌年には化石館が設立された.このようなあきた芸術村には半世紀以上の歴史を積み重ねてできたという背景がある.(Figure.1)

Figure.1 Each facility construction year

このように時間をかけて作られてきたからこそ施設同士

１：日大理工・学部・海建　Department of Oceanic Architecture & engineering, CST. , Nihon-U.
２：日大理工・院(前)・海建　Department of Oceanic Architecture & engineering, CST. , Nihon-U.
３：日大理工・教員・海建　Department of Oceanic Architecture & engineering, CST. , Nihon-U.

はバラバラな配置になりすべての施設が建築内で完結しているのが現状である.また,敷地内を横断する道路や鬱蒼と生い茂る森によって芸術村として機能する施設が一部だけに留まってしまう恐れがある.

3.　建築計画

あきた芸術村を活性化するためにはわらび劇場を再編するとともに敷地全体にまとまりをもたせる必要がある。そこで我々はあきた芸術村をブロードウェイ化することを提案する.劇場でつながる「シアタービレッジ」として計画することでこれまで以上の劇場観光の発展を担い,さらなる地域の活性化を目指す提案として以下の 2 点を計画する.

まずはわらび劇場についてである.わらび劇場のシンボルであった大きな三角屋根をデザインモチーフとして取り入れ新しい,まちのシンボルとして再生させる.(Figure.2)

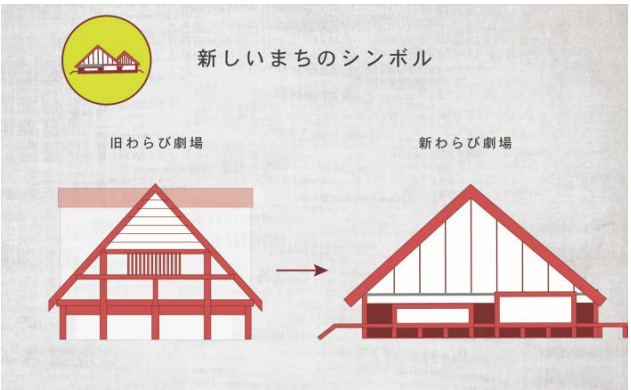


Figure.2 Main theater plan

次に各施設が独立し,断絶された関係で位置している現状の施設同士の間に生まれた余白を活用し小劇場を点在させる.この小劇場は新わらび劇場を中心として周辺環境やそれぞれの施設と連携することで全体が演劇でつながり一体感を持つ役割を果たす.(Figure.3)

Figure.3 Relationship diagram of small theaters

Figure.4 Corridor plan

また,分断されていた各施設を回廊によって物理的にも繋げることで敷地全体を活性化させる.(Figure.4)

この回廊は全体にルーフがかかっており,一部は新劇場のホワイエと室内で続いているため雪による影響を軽減させる.(Figure.5)

わらび劇場の改築及び演劇、娯楽、体験、宿泊機能がうまく、連携し合う事で滞在型のシアタービレッジとして再生する.

Figure.5 Roofed Corridor

Figure.6 Internal plan

Figure.7 Green stage

4.　参考文献

http://www.warabi.or.jp/